

特別連載寄稿「健康、心、薬」第四弾

●千葉大学名誉教授、薬学博士 佐藤 哲男氏 寄稿

▼第5話 気がつかない薬の副作用-あなたは大丈夫ですか-

薬は病気を治すために使うものですが、使い方を間違うととんでもない作用が表れることがあります。これが「副作用」です。使い方を間違うのは患者だけの責任ではありません。薬を処方した医師の判断が間違っている事もあります。医学部学生の教育は患者の診断、治療が中心で、薬そのものについての講義は決して多くはありません。したがって、多くの医師は、研修医の頃に覚えた知識とか、一人前になって外来で毎日患者を診察した経験に基づいて薬を処方することが多いのです。または、何十年間多くの患者と接している先輩医師のアドバイスや、研究会、学会、製薬企業の営業マンの説明などから、自分の専門領域で日常使われる薬について習得するのです。同じ病気でも使う薬は主治医や病院により異なる事が少なくありません。その理由は、患者を診察したときの医師の経験や判断が異なるからです。

それでは、副作用を避けるにはどうしたらよいのでしょうか。患者側のやるべきことは、処方された薬について決められた回数（1日3回、食後など）、決められた量を飲む事です。1日1回の場合は、毎日ほぼ同じ時間に飲むとよいです。もし食事を摂らないときでも、その時間になったら薬を飲む事です。もし2-3日飲んで身体に異常がなければ、処方した薬の用法（回数）、用量（投与量）が患者に合っているということです。もし2-3日飲んで異常を感じたら必ず主治医に伝えて下さい。同じ薬でも患者により効き目や副作用の出方が違います。何も伝えないと医師は「処方した薬が順調に効いている」と判断します。医師側から「薬が効いていますか」と聞く事は極めて限られています。医師は薬を処方しますが、若い医師ほど自分が処方した薬が効いているかどうかと内心では落ち着かない状態の場合が多いのです。したがって、薬を飲んだときには、身体の調子がよくなっても、悪くなっても医師に伝えると安心します。医師はたとえ自信がないことでも、「多分そうでしょう」と言う曖昧な事は言わずに、「それはこうゆうことです」と言い切る様に患者に伝えます。もし、薬についての質問や疑問を医師に聞くのが苦手な人は、薬を受け取った薬局の薬剤師に相談して下さい。薬剤師は医師よりは薬の専門家ですから遠慮する事はありません。それは薬剤師の仕事です。

一方で、患者がいくら決められた量を決められた通りに飲んでも副作用が出

ることがあります。その原因の一つは、医師の不適切な処方です。先日、私の友人 A さんから貴重な体験談を聞きました。高齢者の男性に多く見られる前立腺肥大で、「フリバス」という排尿障害を改善する薬を投与されました。この薬は症状により投与量を変えるために、量の違う 25 ミリグラムと 50 ミリグラムの 2 種類の錠剤が病院で使われています。A さんに処方されたのは、最初 25 ミリ錠でしたが、次週から 2 週間は 50 ミリ錠に増加し、さらに 2 ヶ月後には 75 ミリ (25 と 50 を一錠ずつ) を一年以上飲んだそうです。75 ミリに増量してしばらく経った頃に、めまい、フラフラを感じる様になりました。フリバスの典型的な副作用です。早速医師に体の異常を話して、医師が投与量を 25 ミリに減らしたらめまいが消えました。もし、A さんが医師に伝えなかったら、いつまでも高用量のフリバスが投与され、めまいに悩まされたかもしれません。

薬は適量を飲んで初めて病気を治す働きがあるので、多い程効き目が強くなることはありません。決められた量より多く飲むと、効果は同じで副作用だけが強く表れます。一般に、効果が強い薬ほど副作用も強いのです。睡眠導入剤のデパスは、それまで使われていた同類の薬の 7 - 8 倍効果が強い上に安全な薬と定評がありました。しかし、全国で何百万人も患者が飲むようになったため、これまで知られていなかった副作用が指摘されています。飲んだ翌日頭がぼんやりするとか、瞼が垂れてきて目を開ける事が苦痛になるとか、目の周りの筋肉が収縮して、目を開いているのが苦痛であるとか、様々な症状が最近専門医から報告されています。不眠症の人が睡眠剤で快適な眠りが得られれば、これは「理想的」です。しかし、翌日まで眠気が残ったり、頭がぼんやりして仕事中に居眠りが続くようなら、これは薬の「副作用」といえます。このような副作用がみられる場合でも、患者から言い出さない限り、医師は順調に効いていると判断します。繰り返しますが、患者は薬を飲んで少しでも具合が悪くなったと思ったら遠慮なく医師に言うことが必要です。さもないと、その薬が処方されている限り副作用は続き、場合によってはさらに悪化することがあります。薬は諸刃の剣です。使い方を間違えると命取りになる事もありますのでくれぐれもご注意の程。

***特別連載寄稿「健康、心、薬」第五弾に続く！**

